（2023.12.9）

兵庫史を歩く No.42 「東洋のシェイクスピア」門左衛門が眠る町へ

「近松の里」をめぐる

近松門左衛門（1653～1724）とはどんな人？

本名は杉森信盛といい、越前吉江藩士の次男として生まれたが、父が浪人となったため15,6 才の頃家族と共に京都に移った。その後武士の身分を捨てて、当時下賤といわれた芸能界に身を投じた。

坂田藤十郎のために脚本を書き、その名演技と相まって上方歌舞伎の全盛を招いた。また音曲の名人竹本義太夫と協力して江戸時代の初めに始まった人形浄瑠璃（現在の文楽）を空前の盛況に発展させた脚本家で、「国姓爺合戦」をはじめ「曾根崎心中」「心中天網島」「冥途の飛脚」など数多くの名作を残した。

近松は人形浄瑠璃と歌舞伎の世界で活躍した日本が誇る劇作家であり、井原西鶴・松尾芭蕉と共に元禄三大文学者の一人である。また「東洋のシェイクスピア」とも称され、現代でも文楽、歌舞伎はもちろん、オペラ、演劇、映画などで彼の作品は数多く演じられている。

なぜ近松作品は人気があったか？

近松作品の魅力の一つは「速報性」にある。

たとえば 1720 年に竹本座で初演した「心中天網島」は、実際の心中事件を耳にした近松がその晩に台本を脱稿、翌日の稽古を経て、3 日目には開演したとか。

こうした現代のジャーナリズム的な性格を持ちながらも、親しみやすく大衆の心に響く作品を世に送り出したことにより、近松作品は大きな話題を呼び、人気も高かった。

①伊佐具神社

尼崎市内唯一の式内社である。式内社とは今から約 1,100 年前の平安時代に編纂された延喜式神名帳に載っている神社のことをいう。ということは少なくとも平安時代からある古い、伝統ある神社であることを示している。

元弘 3 年（1333）元弘の変で後醍醐天皇のために奮戦した武将赤松円心（※）が当神社の近くに布陣し、戦勝祈願をしたと伝わる。社殿右手に舟形の大石が横たわっているが、これは社伝によれば、この石の下に円心の甲冑など武具が必勝を期して埋納されていると。ただ掘り返されるのを嫌って、大石を被せるようにして納めたとか。

（※）赤松円心（1277～1350）

鎌倉時代から南北朝時代にかけて活躍した武将。
播磨国作用庄赤松の生まれ。歴史の表舞台に登場するのは元弘の変、57 才の時である。鎌倉幕府打倒の令旨を受け挙兵、建武政権の樹立に多大な功績を挙げた。しかし、建武の中興が武士団に不公平な取扱いであることに心を痛め、後には足利尊氏に協力し室町幕府成立の立役者となった。播磨国守護職に任命され後の守護大名赤松氏興隆の基礎を築いた。

（1）五輪塔

五輪塔があるが、赤松円心の供養塔ともお墓ともいわれる。

（2）社号標石

式内社も時代が移り変われば、祭神・社名を変更したり、付近の神社に合祀して廃社するものがでてきた。そのため江戸時代になり並河誠所が各地を遍歴し周到な考証を行った。その結果当初の式内社に社号標石を与えて、社頭に建てさせた。

②近松公園

滝・池を中心に芝生広場、休憩所を設置し、花見や散歩のできる、約 2ha の敷地をもつ回遊式日本庭園風の公園。昭和 54 年度から整備に着手し、昭和 60 年度末に完成した。
園内には、近松門左衛門が最も脂の乗り切った 50 代を想起した、高さ 1.3mで羽織袴姿のブロンズ像がある。

③近松記念館

地域の人々により設立された「財団法人近松記念館」は昭和 50 年 11 月に開設され、平成 20 年にリニューアルオープンした。

近松が執筆に使用したと伝わる文机など、近松ゆかりの品約 100 点が展示され、園田学園女子大学近松研究所の協力もあり、近松の出生から菩提寺である広済寺との関係、尼崎とのかかわりなどがわかりやすく説明されている。

④広済寺

天徳元年（957）平安時代の武士であり、摂津一帯に勢力を持っていた源氏の頭領多田満仲が妙見菩薩(※)を勧請して開山したとされている。

その後前述の元弘の変で戦災を被って荒れ寺になり放置されていた。正徳 4 年（1714）日昌上人が再興して日蓮宗に改宗した。その時日昌上人と親交があった近松は建立本願人として再興に尽力した。また、1716 年 9 月母親が亡くなった時は、この広済寺で法要を行った。

(※) 妙見菩薩

中国の道教で神格化された北極星が仏教と結びついた神。妙見菩薩を祀る霊場としては能勢妙見が有名であるが、歴史としては広済寺の妙見宮の方が古い。明治になってからの廃仏毀釈・神仏分離により旧妙見宮にあった北辰妙見大菩薩等は日昌上人を祀る開山堂（妙見堂）に遷された。

旧妙見宮がいま隣接地にある久々知須佐男神社である。

(1)近松部屋

本堂裏手には「近松部屋」と呼ばれる部屋が明治の末ごろまであった。六畳二間と奥座敷四畳半の建物である。近松は晩年の約 10 年の間たびたび訪れ、ここで執筆活動をしていた。広済寺周辺は田園が広がっていて静かであり、執筆活動がしやすかったのであろう。

近松は 1706 年春、永年住み慣れた京都から大阪に移り住んだ。その時日昌上人の実家である船問屋・尼崎屋吉衛門宅にたびたび逗留した。船頭や行商人・旅人たちから全国各地の話を聞き集め、それを題材として作品を執筆していたと伝えられている。

（2）近松門左衛門の墓（国指定史跡）

近松は享保 9 年（1724）11 月 22 日に 72 才で亡くなった。毎年命日の前後の日曜日に近松祭が催されている。

広済寺境内には、高さ 48cm の緑泥石片岩の自然石でできた墓がある。墓石表面には近松と妻の戒名が並んで刻まれている。近松作品の成功祈願のために、演劇関係者が今もしばしば訪れている。

近松門左衛門の墓はほかにも？

近松門左衛門の墓と称するものはいくつかあるが、国の史跡に指定されているのはこの広済寺と妻の実家の菩提寺である大阪市中央区谷町の法妙寺跡の二か所だけである。この二か所は墓碑の用材、刻文も全く同じことから、同時に建立されたと考えられる。

⇕

これに対して、広済寺の方が本墓であり、法妙寺跡の方は大阪の人が墓参に不便ということで、死後数年たってから、そっくりのお墓を別に作ったとの異説もある。

⑤久々知須佐男神社

「久々知の妙見さん」と呼ばれ、かつては神仏習合の社であり、広済寺と一体であったが、神仏分離により久々知須佐男神社と改称した。

「矢文石」

多田満仲が摂津の国守になった時、自分の本拠地をどこにしようかと迷っていた。その時住吉大神のご神託があった。「汝に鏑矢を授ける故、矢の行きつく所に汝住むべし」と。これに基づき、この石の上から矢を放ったところ、矢はなんと北北西 15km も先の多田盆地にいる頭が九つもある大蛇に突き刺さっていたという。そこで大蛇の頭を切って九頭明神として供養した。大蛇から流れた血は川のように流れ、多くの田のようになっていた。このことから多田と名付けたとか。

⑥伊居太神社（いこたじんじゃ）

豊かな鎮守の森を擁する伊居太神社は、規模の大きな前方後円墳（※伊居太古墳）の上に建っており、鳥居の建っているところは古墳の前方部と後円部の接続する部分にあたり、社殿側が後円部にあたる。全体的に削平されており墳丘らしきものは確認できず、古墳とは言われないとまず気づかない。弥生時代以来の集落があった所とみられる。こうした氏族祖神の墳墓の上に神社を建てる形は、尼崎市内では、他に水堂須佐男神社（水堂古墳）、南清水素戔嗚神社（南清水古墳）などがある。

平成に新しい本殿が建立された、

「伊居太古墳」

伊居太神社の社殿築造のために、原形は著しく失われているが、全長約 92mの南に面する巨大な前方後円墳とみられ、市内では最大規模の古墳である。築造は古墳時代中期（5 世紀ごろ）と考えられる。ただ、これまでの調査では既に墳丘が削平されていることもあって、出土品は見つかっていない。

⑦近松モニュメント

尼崎市では市制 70 周年を契機に「近松」を文化振興のシンボルと位置づけ、様々な取り組みを行っている。

「近松断章」

近松門左衛門が愛用したと伝えられる硯石と近松の代表作「曽根崎心中」の主人公お初・徳兵衛のレリーフに床本（浄瑠璃の本）をモチーフにしている。
床本には「曽根崎心中」道行の名文が書かれている。

「近松門左衛門へのオマージュ」

平成元年（1989）に「近松の人と世界」をテーマに全国公募したコンクールで大賞に選ばれた作品である。近松の創造性に対する敬意を象徴したモニュメント。

「赤と黒」

同じコンクールの入選作品で、尼崎東ライオンズクラブが創立 25 周年記念事業として設置した。
人間の理屈ではおしきれない業、性、感情などを色と形で造形した。

「明日への指標」

行動美術協会の彫刻家・小林陸一郎氏の作品で、近松作品の陽と陰を表現したもの。
〇と一のデザインは近松の紋所〇をアレンジしたもの。

（次回予告）　2024.1.19

兵庫史を歩く No.43　「廃城令」により地上から消え去った城

尼崎城址をたどる